

(三) 服部 宇之吉 (一八六七—一九三九年)

慶應三年(一八六七年)二本松藩士の三男として生まれました。幼少にして両親になくなられたので、父の弟夫婦に育てられました。明治六年(一八七三年)に養父が東京にある旧二本松藩邸に勤めることになったので、養母とともに上京し、貧しいながらも実直勤勉な養父母のお陰で、勉学への第一歩をふみだすことができました。

宇之吉が中国哲学(人の生き方などの学問)の第一人者といわれるまでの足あとをたどってみると、上京後、さっそく同区内の漢学者の塾に通いはじめ、明治九年麻布小学校に入學し、四年で卒業、今度は漢字、英語、数学の三つの塾に通いました。明治十四年には共立学校(東京開成中学校の前身)に入り、明治十六年には大学予備門に入學、さらに、明治二十年に東京帝國大学(現在の東京大学)に入學しました。この帝國大学において、宇之吉の漢学者、教育者そして中国哲学の権威者としての基礎が構築されました。大学卒業後文部省に入るがすぐやめてしまい、明治二十四年第三高等学校(旧制三高の前身)教授となりました。その後東京高等師範の教授を経て、明治三十二年から漢学研究のため中国とドイツに留学し、帰国後東京帝國大学教授に迎えられ、文学博士号をうけております。明治三十年には中国の北京大学教授、大正四年にはハーバード大学の教授として教壇にたたれたこともあります。このような教育活動を続ける中で数多くの業績を残されました。



服部 宇之吉

著書、論文は数えきれないほどありますが、特に「詳解漢和大辞典」は小柳司氣しき太などいう人と二人で書いた辞書で多くの人々に利用されております。『戒石銘』についても、東洋哲学研究の権威者である宇之吉博士が、その研究の第一人者としてあげられます。